

# 2015年9月17日 チリ中部沿岸の地震

情報発表に用いた震央地名は〔チリ中部沖〕である。

## (1) 概要

2015年9月17日07時54分（日本時間、以下同じ）にチリ中部沿岸の深さ21kmでMw8.3の地震が発生した。この地震により、震源に近いチリの検潮所（コキンボ）で4mを超える津波を観測するなど、日本を含む太平洋沿岸の多くの国で津波を観測した。チリ国内では、今回の地震と津波により、死者12人、家屋全壊約60棟、家屋半壊約200棟などの被害が生じた。

気象庁は、この地震により、18日03時00分に北海道から沖縄県にかけての太平洋沿岸等に津波注意報を発表した（同日16時40分に全て解除）。この地震に伴い、岩手県久慈港（国土交通省港湾局）で78cmの津波を観測するなど、北海道から沖縄県にかけての太平洋沿岸等で津波を観測した。

## (2) 地震活動

### ア. 発生場所と余震の状況

2015年9月17日07時54分にチリ中部沿岸の深さ21kmでMw8.3の地震が発生した。この地震は、発震機構（気象庁によるCMT解）が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、ナスカプレートと南米プレートの境界で発生した。

地震活動は、本震－余震型で推移しており、余震は本震を挟んで南北およそ350kmの範囲で発生している。9月30日までにM6.0以上の余震が13回発生し、最大規模の余震は9月17日08時18分に発生したMw7.0の地震である。

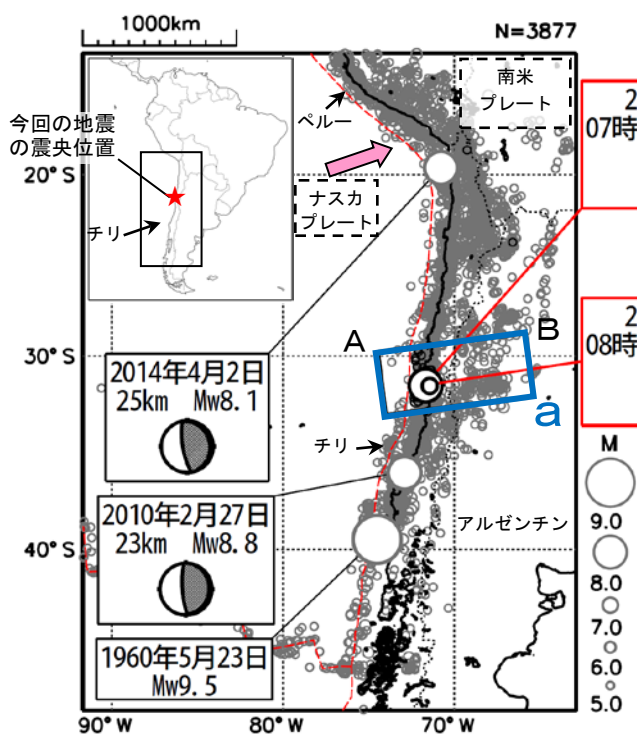


図2-1 震央分布図  
(1960年1月1日～2015年9月30日、深さ0～200km、M $\geq$ 5.0)  
2015年9月17日以降の地震を濃く表示

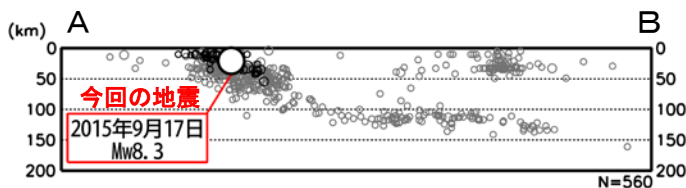


図2-2 領域a内の断面図（A-B投影）  
2015年9月17日以降の地震を濃く表示

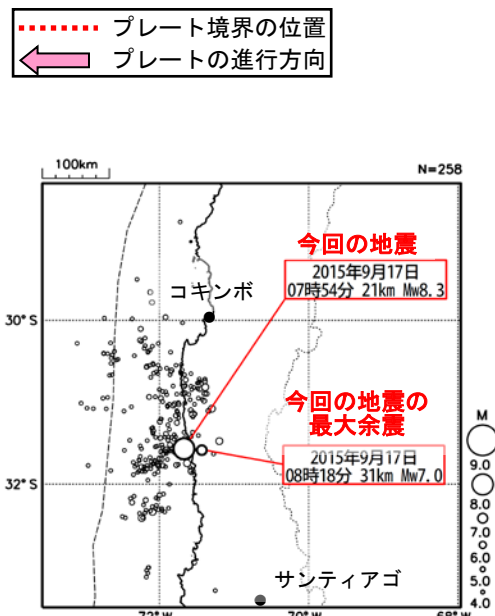


図2-3 震央周辺の拡大図（本震と余震の分布）  
(2015年9月17日～9月30日、深さ0～60km、M $\geq$ 4.0)

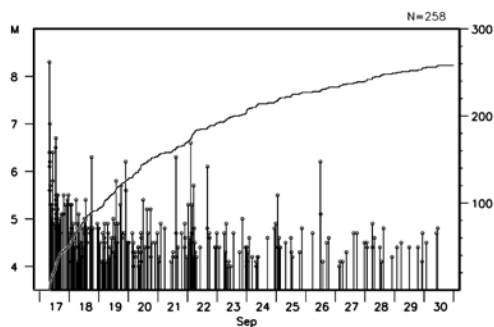


図2-4 上図内のM-T図および回数積算図

本資料中、2010年2月27日、2014年4月2日及び今回の地震の発震機構とMwは気象庁による。1960年5月23日の地震のMwは、宇津及び国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センターによる「世界の被害地震の表」による。その他の地震の発震機構と震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2015年10月1日現在）。被害は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による（2015年9月18日現在）。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）より引用。

参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成